

### 3, 4, 5歳児における体育活動に着目した保育について — 自由記述式の回答より —

小 沢 日美子

九州女子短期大学子ども健康学科 北九州市八幡西区自由ヶ丘1-1 (〒807-8586)

(2013年6月6日受付、2013年7月11日受理)

#### 要 旨

ここでは、3, 4, 5歳児における体育活動に着目した保育について、実施していると回答のあった58の園からの自由記述形式による質問についての結果を報告する。質問では、体育活動の(1). 導入のきっかけ・主な内容、(2). 良い点・困った点、(3). 工夫点・伸長点の3つの点を尋ねた。ここで回答を得た結果から、体育活動は、幼児の身体の発達に関連することだけでなく、園における幼児の身心両面の発達を促進するものとして、捉えられていることが考察された。なお、体育活動の観察事例からも、幼児に行動の目標をもつことが促されると考えられた。

#### 1. 問題

幼児期の子どもが通う幼稚園・保育所等の保育で、学級担任などの保育者だけではなく、体育・スポーツを専門とした研修または実践の経験を通し学ぶ機会をもった保育者、あるいは、体育・スポーツを専門とする者(教師・有資格者・院生/学生等)などが参加して行われる体育活動を見聞きすることが、最近少なくない。もとより、幼稚園教育要領・保育所保育指針に示されるように、幼稚園・保育所では、幼児の遊び・生活といった総合的な活動を通し、健康、人間関係、表現、環境、言葉の5領域の発達を促すことが行われてきている。したがって、保育を専門的立場とした保育者は、健康を含めた5領域における成長・発達を促す役割を担っている。

従来、課外活動の時間帯では、園の施設を利用して、希望者が参加する活動の実践が、体育に限らず、音楽、絵画、英会話などのそれぞれの専門的な活動のために講師が外部から来園して行われてきている。そして、これらの活動は、それぞれの専門的立場において行われている(なお、本報告では直接取り上げないが、体育活動と同様にして、日々の保育の中で保育者とともに、それぞれの専門的立場の講師が保育にあたる活動は多数行われて来ている)。

それでは、学級担任等の役割を担う保育者らとともに、体育・スポーツについての有資格者などを含む、体育・スポーツについての一定の経験を持った指導者が参加して行われる保育は、どのようにして行われて来ているのだろうか。これまでに特色ある保育実践についての研究(eg., 吉川ら, 1995)は大変多数行われており、また、保育者養成校における各領域

の効果的な指導力の養成に関する研究、さらに、保育時間外の課外活動に関する報告も数多く行われてきている。しかし、その中で、日々の保育で保育者とともに、体育・スポーツの経験をもとにした役割を担う者が実施する体育活動に焦点を当てた研究報告についてはあまり見ることができない。本報告では、まず、先述してきた体育活動に着目した保育活動を知るということに取り組みたい。

## II. 目的

幼稚園・保育所等で、3, 4, 5歳児の保育活動として、保育時間において学級担任等の保育者らとともに、体育・スポーツを専門とした研修または実践の経験を通し学ぶ機会をもった保育者、あるいは、体育・スポーツを専門とする者（教師・有資格者・院生/学生等、以下、本報告では体育講師と呼ぶこととする）などが参加して行われる活動の実態を調べるため、これらの活動に関して、導入、影響、展開に関連する質問を自由記述によって求めた回答について報告する。また、園での体育活動の観察2事例を挙げて体育活動の特色の検討を加える。

## III. 方法

1. 調査対象（幼稚園・保育所等）：Internet上のsearch engineによってKey Word（「幼稚園」「保育園」「特別活動」「特別教室」）検索に上がった順（所在地域その他の条件にかかわらず）に郵送等で調査用紙を送った（107園。2012年12月～2013年2月）。回答が返却された69園（回収率65%）において、体育活動に着目した保育を行っていると回答した園である58園（幼稚園37、保育園13、認定こども園2、幼稚園及び保育園1、未記入5）を調査対象とした。
2. 手続き：質問紙法。ここでいう体育活動に着目した保育が園での活動としてどのように行われてきているのか、その導入時のねらい、活動導入による影響、園における活動の展開に関する3つの質問（1. 導入のきっかけ・主な内容、2. 良かった点・困った点、3. 工夫点・伸長点）を行い、自由記述の結果を集計して整理し報告する。なお、自由記述の文の個人情報の取り扱い上、質問ごとに得た回答全体の傾向を捉えるために分類した件数と、分類のためのキーワードについて、質問の結果ごとに報告する。

また、最後に、体育活動に着目した保育活動の実態調査の補足として、本報告で質問紙の回答があった園の中で、体育活動に関する活動観察の機会を得た園の2事例を加えて報告する。

## IV. 結果・考察

1. 質問紙の回答欄記入者の役割について：

本調査質問紙の回答欄記入者について尋ねたところ、表1のようだった。

表1 質問紙の回答欄記入者の役割について

| 理事長    | 園長      | 副園長     | 教頭     | 主任      | 担任     | 未記入     | 計      |
|--------|---------|---------|--------|---------|--------|---------|--------|
| 1      | 24      | 9       | 1      | 14      | 3      | 6       | 58     |
| (1.7%) | (41.4%) | (15.6%) | (1.7%) | (24.1%) | (5.2%) | (10.3%) | (100%) |

質問紙回答者では、理事長、園長、副園長、教頭といった経営管理的立場の役職者が60.3%と、半数以上だった。さらに、主任の役割にある者を含めると、84.5%だった。また、未記入が6件あったが、複数の記入者がいたことも考えられる。

つぎに、体育・スポーツについて専門的立場で体育活動を担った者について、その免許・資格等について、表2に示した。具体的な回答では、体育講師・インストラクター等に分類される回答内容が最も多かった。そのほか、未記入園が半数近くあったが、紹介されたり、依頼機関から派遣されたりした場合など、その具体的な詳細については分かりかねたことが考えられる。

表2 体育活動に参加した指導者の所属・資格

| 種類  | 専門機関所属<br>(認定資格等) | 体育大学卒<br>(教諭免許等) | 不明   | 記入園計  | 未記入園計 | 総合計    |
|-----|-------------------|------------------|------|-------|-------|--------|
| 件数  | 22                | 10               | 1    | 33    | 25    | 58     |
| (%) | (38%)             | (17%)            | (2%) | (57%) | (43%) | (100%) |

注1：「専門機関所属」とした回答記載例：体育教室講師、体育指導講師、スポーツクラブ指導員、スポーツ・インストラクター、体育協議会職員、運動保育士など

注2：「体育大学卒」とした回答記載例：大学教員、体育教師、体育の教員免許など

## 2. 質問1：「体育」の活動を導入された「きっかけ」、「主な内容」を教えてください。

ここでは、体育活動の導入では、幼児のどのような成長・発達をねらいとしているか、また、そのための活動として行っていることを尋ねた。回答文は、子どもの身心の発達・成長と関連する記述が大変多く、それ以外は、体育活動のための指導者（体育講師等）に関する記述と、園の保育・教育の方針に関する記述が多かった。

体育活動の導入時のねらいに関連する「導入のきっかけ」と「主な活動」の自由記述文の内容は表3-1のように分類された。回答文中で用いられているキーワードは、表3-2～表3-4に記載した。

表3-1 体育活動の導入についての自由記述文の内容について

| 分類   | 子どもの成長・発達 | 体育活動の専門性 | 園の保育・教育 |
|------|-----------|----------|---------|
| 述べ件数 | 40        | 15       | 11      |
| (%)  | (60%)     | (23%)    | (17%)   |

表3-2 「子どもの成長・発達」の分類における主なキーワード

幼児、子ども、健康、体力、運動、基本的な運動能力、身体を動かす、楽しさ、心の発達、転倒（ころぶ）の減少、怪我の減少、敏捷、協調性、柔軟性、多様性、バランス感覚、リズム感、ストレス発散、身体のコントロール、自己身体の制御、心身の協調、忍耐、大脳の刺激、集団、遊びの発展、発達

表3-3 「体育活動の専門性」の分類における主なキーワード

専門、プロフェッショナル、体育、公認講師、男性講師、指導方法、カリキュラム、競技（具体的には多数の種目名が挙げられた）

表3-4 「園の保育・教育」の分類における主なキーワード

園の特色、教育方針、保育方針、クラス全員の参加形態、大学との連携、園舎、就学、紹介

保育における体育活動の導入は、「子どもの成長・発達」を促進すると考える園が多いことが示されている（60%）。また、「体育活動の専門性」では、運動についての指導法、年間を通しての発達段階に合わせたカリキュラムに関する記述がみられた。「園の保育・教育」では、日々の保育に導入することを園の特色としてとして捉えている記述があった。日々の保育で、保育者とともに、体育講師とともに体育活動を導入している園では、体育活動の導入が、単に特定の運動能力の発達に特化したねらいをもっているというよりも、総合的に考えて体育活動の導入が、園としての保育・教育の目標を促進すると捉えられていることが示唆される。

3. 質問2：「体育」の活動を導入されて「良かった点」、(あれば)「困って点」を教えてください。

ここでは、体育活動の導入による影響（良い点、および困った点の両者を含む）について、尋ねた。回答を得た自由記述文の内容は、表4-1に分類された。また、回答文中で用いられているキーワードは、表4-2～表4-8に記載した。

保育における体育活動の導入が、「生活の豊かさ」と「集団生活力」に概ね良い影響があると考えられている回答が合わせて48件あった。この回答からは、これらの園では体育活動の導入が、幼児が、生きいきとして園生活を送ることの促進につながっていると考えられる。また、「身体の成長・発達」と「心の成長・発達」に概ね良い影響があると考えられている回答は、合わせて40件あった。ここでの回答からは、特定の運動能力の発達だけでなく、心身の成長・発達に良い影響をもたらしていると考えられているようだった。また、「指導法」については、体育講師の専門的観点と専門的指導法を肯定的に捉えて、日々の保育に保育者も取り入れていくなどの積極的な受入れ姿勢が捉えられた。「教育」については2件と少数だったが、園の行事の運び、小学校への就学準備に良い影響があるという回答内容だった。そして、「今後の課題」では、体育講師と保育者における指導上の関係調整に関する

こと、その他、園の施設等の環境、および、園が負担する講師料に関する記述があった。

ここで回答を得た園における体育活動では、園生活を幼児が楽しく元気に過ごすこと、また、幼児自身の身心両面の発達に良い影響を与えるものとして考えられていることが示唆される。また、指導法などを含む保育・教育面では、日頃の保育を補うような指導として肯定的に捉えられる面が多く挙げられていたが、保育者と体育講師との間での関係調整も欠かせないことを示唆する記述もみられた。

表4-1 「体育」活動の導入による「良かった点」「困った点」

| 内容の分類 | 生活の豊かさ | 集団生活力 | 身体の成長・<br>発達 | 心の成長・<br>発達 | 指導法 | 教育 | 今後の課題 |
|-------|--------|-------|--------------|-------------|-----|----|-------|
| 述べ件数  | 24     | 24    | 23           | 17          | 16  | 2  | 8     |

表4-2 「生活の豊かさ」の分類における主なキーワード

楽しい、楽しんで、笑顔、喜んで、達成感、自信、元気、生活の励み、活動

表4-3 「集団生活力」の分類における主なキーワード

挑戦意欲の意識、ルール、集団行動、協調性、チームワーク、思いやり、励ます気持ち、話を聞く姿勢、集団適応、団結力、大きな声、返事、感謝、自己発揮、様々な活動

表4-4 「身体の成長・発達」の分類における主なキーワード

運動能力・体力の増進、身体の動き・使い方、運動が好き、運動への興味・関心、遊びへの影響、怪我の程度が良くなった、怪我の頻度が減少した、基本的動作、バランス感覚、俊敏さ

表4-5 「心の成長・発達」の分類における主なキーワード

集中力、根気強さ、忍耐力、持久力、けじめ、メリハリ、切り換え、責任感、やる気、緊張感、自分の意思と身体の動きが一致していく喜び、心身の成長にすがすがしさ

表4-6 「指導法」の分類における主なキーワード

基本的指導法、正しい指導法、基本から関心を広げる、保護者、個々の成長理解、男性の先生、アドバイス

表4-7 「教育」の分類における主なキーワード

行事、小学校

表4-8 「今後の課題」の分類における主なキーワード

講師に任せきり、個別フォロー指導、体育を嫌がる、授業、園舎園庭、屋外放射能、講師料負担

4. 質問3：「体育」の活動を行うことで、「工夫されている点」「子どもの力が伸びたと考える点」を教えてください。

ここでは、体育活動の導入後の展開はどのようなものであるのか、「工夫されている点」「子どもの力が伸びている点」について尋ねた。その自由記述文の内容は、表5-1のように分類された。また、それは、回答文中で用いられている主なキーワード等（表5-2～表5-5）によって分類した。なお、ここでの回答からは、問2で尋ねた体育活動導入による影響に関連すると考えられる具体的で肯定的な内容を読み取ることができる。

表5-1 「体育」活動で「工夫されている点」「子どもの力が伸びたと考える点」

| 分類   | 工夫している点 |         | 伸びている点  |            |
|------|---------|---------|---------|------------|
|      | 保育者     | 体育活動の講師 | 個に関する育ち | 個と集団に関する育ち |
| 述べ件数 | 16      | 14      | 28      | 6          |

表5-2 「指導の工夫：保育者」の分類における主なキーワード等

誉める、楽しい声かけ、安全に心がける、保育でも教える、精神面を強化、指導者と保育者が連携、保育者の補助、家庭でも教える、過程を大切

表5-3 「指導の工夫：体育活動の講師」の分類におけるキーワード等

できるまでの時間、基礎・基本の指導、活動ができるコツ、自分に目標、意識的に身体を動かす、動作、分析、段階的カリキュラム、移行

表5-4 「伸びている点：個に関する育ち」の分類における主なキーワード等

努力、自信、意欲、身体の動かし方、体力、持久力、集中力、挑戦する力、個々の目標に取り組む、達成感、最後までやりとげようとする、関心をもって自発的に動く

表5-5 「伸びている点：個と集団に関する育ち」の分類におけるキーワード等

友達の頑張り、団結力、協力する力、ルール、友達づくり

ここで回答を得た「工夫している点」からは、まず、保育者は、体育活動が安全に、かつ、充実した活動になるように指導上の工夫をしていることが挙げられる。さらに、日々の保育につなげて展開してだけでなく、家庭の保護者との連携によって、身心両面から体育活動が充実した内容になるように工夫していると考えられる。そして、体育講師については、一つひとつの運動の基本構造を理解して、幼児に目標を明確にした指示を出し、幼児が意識的に一つひとつの動作に取り組むことができるように働きかけていることが考えられる。また、「伸びている点」からは、まず、個々の幼児が、身体を動かすことに関心を持つことが

伸びていると受け止められていると考えられる。さらに、与えられた努力目標に対して、幼児自ら意識を持って取り組む力が伸びることにつながっていると受けとめられていることが考えられる。また、個と集団に関する育ちでは、明確な目標、ルールの共有などから、連帯感の形成につながっていると受けとめられていると考えられる回答も複数件見られた。

### 補足：観察による活動調査の2事例

本報告では、保育者と共に体育活動のための講師が参加して行われる「体育」活動に着目した保育についての質問紙調査の自由記述式の回答による結果を報告した。それに補足して、ここでは、活動観察の協力を得たA園の観察場面の事例を報告する。2事例の活動種目はともに鉄棒である（※本報告では調査時期、調査期間、依頼園事情などの理由により、保育者と体育講師がともに参加する活動について観察を行い得たA園で行った複数回の活動観察からの2事例を報告することとした）。

〔観察活動協力園〕A幼稚園の年中児クラス（20名程度）。活動時間等：30分程度、週一回。

〔体育活動時の保育者・体育講師〕：クラス担任の保育者2名、体育活動に参加する講師3名（体育講師の有資格者1名、体育大学学生2名）が参加して行われた。筆者は活動の初めから終わりまでを保育室内にて観察した。観察の記録は、JVC GZ-EX370-Bによって行った。

〔体育活動の概要〕保育者2名が、保育室より園児を引率して入室し、体育活動講師に挨拶し、体育活動講師の主導により活動が展開された。その場に保育者も参加して、園児らへの励ましを含む個別の対応のほか、活動の補助としても入るなど活動全体が円滑に運ぶように参加した。活動は入室、整列、挨拶、走る、柔軟運動、縄跳び、鉄棒、整理体操、挨拶、退室の順に行われた。

〔観察時期〕2013年2月～3月。

〔活動種目〕「鉄棒」：ツバメ（両手で鉄棒を握り、腰の部分で鉄棒に体重をあずけるまでの動作）から、座布団（頭を鉄棒より低く下げて、お腹のところで鉄棒を挟むようにするまでの動作）、でんぐり返し（下がった頭の状態から手足で反動をつけて、ぐるっと回りこむまでの動作）。

〔「鉄棒」の活動全体状況〕：園児は、事前の活動である縄跳びの活動を終え、室内に3台平行に並べて置かれた鉄棒の前に3列になって整列する。初めに体育活動の講師が、今日の活動のねらいを語りかけるように演技のモデルも示しながら、園児らに説明する。園児らは緊張した表情で講師の先生を見つめて真剣に話を聞いている。その後、体育講師に指示されて3列に並んだグループごとに、鉄棒の活動に取り組んで行く。体育講師は、鉄棒1台ずつについて、個別に演技の指導と援助を行う。順番を待っている園児は緊張した表情だが、自分の順番を終えて、顔がほころび、なかには笑顔で他の園児とハイタッチをしたり、達成した

喜びを小躍りするかのように身体で表現したりしている。また、つぎの順番が巡ってくるのを緊張した表情で待っている園児もいる。保育者は、緊張する園児を励ましたり、演技の手助けが要る園児の補助をしたりしている。

### (1) 個の育ちに注目した観察事例

・ Bちゃん：初めに鉄棒の脇に立つ体育講師が、「ハイッ」と手を叩き声かけをする。Bちゃんは飛び上がるが、鉄棒の持ち手が不完全で、つぎの動作に移動できない。体育講師が、Bちゃんが姿勢を整えしっかりと握れるように補助する。Bちゃんが姿勢を整えた後、体育講師が背中に手を当て、Bちゃんは体重を鉄棒に預けるような姿勢になる。その後、体育講師が軽く背中を押しながら、Bちゃんは動作の流れの中で身体を下方に向け、ゆっくりと回り始める。逆さになりかけた所で、体育講師が残りの回転を反動で回るように手を添える。Bちゃんは、鉄棒をしっかりと握ったままぐるりと回り、自分が初めいた鉄棒の反対側に戻る。Bちゃんは、少しはにかみながら、「やった」という表情で、最初の列の中に小走りに戻る。

[考察] Bちゃんは、自分の身体を操作する一連の動作を一つずつ獲得しながら、自己身体を操作することを経験している。自分の手の位置、身体の重心の置き方、自分はいまどこにいてどこに向かおうしているのかという一連の動作の流れの中で、自分自身を感じ取れる能力を身につけていると考えられる。そこでは、具体的な手指の操作、自分の身体と鉄棒という物との関係、運動の方向性を捉えて身体を操るなど、自己と自己、自己と物と、自己と周囲との関係を育てていると考えられる。それは、自己と他者（具体的な指導を通しての体育講師、その場に参加する保育者、そして同じ活動を共にする園児）との関係の中で育まれていた。

### (2) 個と集団の育ちに注目した観察事例

・ Cちゃん：不安な表情で鉄棒に向かうCちゃんを体育講師が、Cちゃんの鉄棒の向かい側で膝を折ってすわり目を合せて「大丈夫」と待ちうける。鉄棒の前で、立ち止まるCちゃん。体育講師が声かけをするが、うつむいている。後ろから、保育者がCちゃんの飛び上がりを補助するように支え、前から体育講師が姿勢を整え、重心の移動を補助するがそこで降りる。つぎの順番では、Cちゃんが鉄棒の前に戸惑いを感じる不安な気持ちが、他の園児にも伝わっていく。「がんばれ」という声が起こり、やがて多くの園児たちが「がんばれ」と声援する。最初からCちゃんの姿勢を整え、鉄棒の上で安定できるように保育者と体育講師で補助する。その後、「がんばれ」の園児らの声援は、自分の身体の動かし方、どうしたら鉄棒上で自分の身体が安定できるか、戸惑っている他の園児にも向けられていた。

[考察] Cちゃんの鉄棒を前にして、「大丈夫かな」「できるかな」「どうなるのかな」と前に



向かう気持ちが一瞬立ち止まってしまうことが、他の園児にも伝わり、声援が広まっていったようだ。ここでの体育活動は、その部屋に入ったときから、皆が同じ目標を持ち皆で行動するというルールの中で行われていたが、そのような関係の中において生じた行動のように捉えられた。

## V. まとめ

本研究では、3, 4, 5歳児の体育活動に着目した保育について、幼稚園・保育園等58園より回答を得た導入、影響、展開に関連する3つの質問についての自由記述形式による回答内容を中心に報告した。そして、保育における保育者と体育講師による体育活動は、園生活を幼児が楽しく元気に過ごすこと、幼児自身の身心両面の発達を促進するものとして捉えられていると考えられた。また、そのためには、園における一つの保育活動として充実させていくために、保育者と体育講師の間での関係調整も大切であると考えられているようだ。そして、体育講師によって行われる活動の特色としては、運動の基本構造の理解に基づいた幼児への目標を明確にした指示により、幼児自らが、意識的に一つひとつの動作に取り組むための働きかけが行われることであると考えられた。荒井ら(2013)は、幼児体育の指導場面では指導者による示範は不可欠であると述べ、将来保育者として運動指導に当たる学生にとって、日常生活や運動遊びの基本的な動き方を学習すること、その運動の「運動構造」を理解したうえで「動き方のコツ」を認識することで、より生き生きとした言葉による実践的な指導が可能となると述べ、運動伝承を効果的に行うことの重要性を示唆している。ここで報告した活動においても、個々の幼児が、身体を動かすことに関心を持つことが伸び、与えられた努力目標に対して、幼児自らが意識を持って取り組む力が伸びることにつながっていると捉えられる回答が挙げられていた。また、補足した活動の観察事例からも同様のことが考察されている。なお、本報告は、これまで述べてきた保育現場における体育活動の実践を知るということを目的としており、その効果等については、今後の検討課題としたい。

付記：本報告は、九州女子大学・九州女子短期大学平成24年度特別研究費（萌芽的研究プログラム）受託により行った「幼児期の他者理解の発達—“特定分野における諸活動”との関連に着目して—」の研究の一部にあたる。

## 引用参考文献

- ・荒井迪夫・中西一弘(2013) 幼児体育指導者の動感認識に関する一考察, 淑徳短期大学研究紀要 (52), 61-70.
- ・杉村伸一郎・浅川淳司・岡花祈一郎(2010) 幼児期の社会性の発達における運動の役割, 日本教育心理学会総会発表論文集 (52), 301.

- ・杉村伸一郎・浅川淳司・岡花祈一郎・財満由美子・松本信吾・林よし恵・上松由美子・落合さゆり (2009) 幼児期の発達における運動の役割, 学部・附属学校共同研究紀要 (38), 295-300.
- ・木村達志・石山由美・松永有三 (2013) 保育者養成校 (短期大学) と付属幼稚園との連携による幼児教育現場での幼児体育I の実施, 安田女子大学紀要 (41), 169-175.
- ・多田立美・杉原 隆 (2000) 幼児・児童の運動能力の発達と体育教室での行動との関係, 日本体育学会大会号 (51), 168.
- ・田中真紀・稲垣実果・石川隆行 (2011) 幼児の運動能力と向社会性との関係について, 聖母女学院短期大学研究紀要 (40), 58-62.
- ・中澤 潤・泉井みずき・本田陽子 (2009) 幼児の有能感の認知と遂行との関連—幼児樂觀性の視点から—, 千葉大学教育学部研究紀要 57, 137-143.
- ・中山忠彦・中井 聖 (2012) 幼児の発育発達特性や社会性の獲得に配慮したサッカー教室が幼児の心理状況や体力に及ぼす効果, 近畿医療福祉大学紀要 (13-1), 23-29.
- ・吉川晴美・義永睦子 (1995) 幼児の人間関係の発達に関する事例的研究: 人間関係とことばの発達, 東京家政学院大学紀要 (35), 27-34.

## **Childcare activities with three, four, and five-year-olds assessed by focusing on gymnastics**

Himiko OZAWA

Kyushu Women's Junior College Department of Childhood Care and Education  
1-1 Jiyugaoka, Yahatanishi-ku, Kitakyushu-shi, Fukuoka, 807-8586, Japan

### **Abstract**

Effects of childcare focusing on gymnastics with three, four, and five-year-olds are reported based on responses to free descriptions of nursery and kindergartens teachers (N = 58). Three issues were investigated: Reason for introducing gymnastics and its main contents (Question 1); Positive and negative aspects of gymnastics (Question 2); and Plans for promoting such activities and the result of child development (Question 3). Results indicated that gymnastics was important for promoting the development of motor functions of small children, as well as for promoting their mind and body during care activities. Moreover, the observation of gymnastic activities indicated that small children were prompted to become aware of goals for their own behaviors as a result of these activities.